

JIS

UDC 003.324.2 : 681.327.12

X 9009

光学式文字認識のための手書き文字 (平 仮 名)

JIS X 9009⁻¹⁹⁹¹

(2002 確認)

(2007 確認)

平成 3 年 8 月 1 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：昭和 60.7.1 改正：平成 3.8.1

官 報 公 示：平成 3.8.16

原案作成協力者：社団法人 日本電子工業振興協会

審 議 部 会：日本工業標準調査会 情報部会（部会長 高橋 茂）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部情報規格課（〒100 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

光学式文字認識のための
手書き文字（平仮名）

X 9009-1991

Handprinted HIRAGANA characters for
Optical Character Recognition

1. 適用範囲 この規格は、光学式文字認識（以下、OCRという。）に使用する手書き平仮名の字形並びにこれに関連する横書き及び縦書きの仕様を規定する。

参考 OCRのための手書き漢字の字形及びこれに関連する事項を参考として示す。

2. 用語の定義 この規格で用いる主な用語の定義は、次のとおりとする。

- (1) 平仮名 平仮名は、次の85個の文字及び記号とする。“あいうえお かきくけこ さしすせそ たちつてとなにぬねの はひふへほ まみむめも やゆよ らりるれろ わぬゑをん がぎぐげご ざじずぜぞ だぢづでど ばびぶべば ぱぴぷぺぱ あいうえおつゃゆよゝ・(句点)、(読点)”
- (2) 字形 実際に書かれたり印刷されたりしたときに実現する図形。
- (3) 字体 表現された字形の基礎にある文字概念で、個々の文字を識別する要素としての点画、筆画の組合せ方をいう。すなわち、字体は抽象的なものであり、具体的には字形として表現する。
- (4) 線素 個々の字形を構成する一筆で書いた線。
- (5) 線幅 線素の幅。
- (6) 空けき(隙) 字形を構成する線素の間に保たれるべき有意味の空白。
- (7) 突出し 二つの線素が一点で交差又は接触しているとき、基準となる線素に対して交差部から出ている線素の一部。
これは、“あ お か き け さ す せ た ち な ぬ ね は ま み む め も や ゆ よ れ わ を ぁ ゅ ょ ゝ”の字形に見られる。
- (8) はね ある線素の終端部から他の線素への筆順上の移行を示す付加的部分。
これは、“い か い”の字形に見られる。
- (9) 短線素 複数個の線素で構成されている字形において、比較的短い線素。
これは、“う え お そ な ふ む や ら ,(読点) り え お ゃ”の字形に見られる。
- (10) 微小ループ 同一線素の接続、交差によって生じる微小な閉じた領域。
これは、“お す な ぬ ね は ほ ま み む よ る。(句点) ゐ ゑ ゃ”の字形に見られる。
- (11) 帳票基準辺 機械読取りの際に基準となる辺。横書きの場合は水平に、縦書きの場合は垂直に取る(付図1参照)。
- (12) 記入枠 帳票基準辺に平行及び垂直な線で囲まれた、一つの字形を書く場所を示す長方形の内側(付図1参照)。
- (13) 記入枠の幅 一つの記入枠を構成する縦線間(内側)の距離(付図1参照)。
- (14) 記入枠の高さ 一つの記入枠を構成する横線間(内側)の距離(付図1参照)。
- (15) 記入帯 帳票基準辺に平行及び垂直な辺を有する1行中の一組の連続した記入枠をすべて含む最小の長方形領域